

令和2年度 予算の概要

多摩ニュータウン環境組合

1 令和2年度予算について

【予算編成の基本的な考え方】

－中期経営計画・ビジョン2022 ステップアップの年－

国はアベノミクスの推進・展開により、デフレではない経済状況を作り出し、長期にわたる回復を持続させ、GDPは名目・実質ともに過去最大規模に達し、国民生活に密接に関わる雇用・所得環境も、大きく改善していると分析しています。また消費税率の引上げに際し、適切な対策を講じることにより、需要変動の平準化を図り、経済の回復基調に影響を及ぼさないように取り組むこととしています。

東京都においても、平成31年度一般会計予算額は東京オリンピック・パラリンピック2020大会準備の総仕上げなどに伴い過去最高の7兆4,610億となり、都税収入は過去最高に迫る水準となりました。しかしながら、平成31年度税制改正による減収の影響を令和2年度以降に受ける見込みとしています。

また、構成市においては、少子高齢化や人口減少社会の進展により、社会保障経費の増加は続き、構造的収支不足は拡大しています。そのような厳しい財政状況の中で、持続可能で質の高い、健全な行政運営の維持が求められています。

本組合は、焼却棟の稼働から22年目、不燃・粗大ごみ処理棟稼働から18年目を迎えるなか、「中期経営計画・ビジョン2022」を基に、経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現に向けた取り組みを行っていくこととしています。経営計画に掲げた事項の着実な推進のため、設備の老朽化に対して、機器を良好な状態に維持し、長期修繕計画を確実に実施する必要があります。また、将来的な次期処理施設検討の準備を進めるとともに、地元住民との関係強化の取り組みを一層推進する必要があります。

そのうえで、現下の厳しい構成市の状況も鑑み、効率的で効果的な組合運営を図り、安全で安定した工場運営を維持できるよう予算を編成しました。

令和2年度予算のポイント

「中期経営計画・ビジョン 2022」に基づき所要額を見積りました。また、経費についてはすべての事業について内容を精査し、構成市の負担金に安易に依存することのないよう、経費の節減を徹底した予算を編成するため以下のポイントを定めました。

- ① 安全で安定したごみ処理体制の確保について
 - ・安定した運転と長期的な視点に立った施設の維持管理に努める。
 - ・コストを意識した精度の高い的確な予算を編成する。
 - ・新規レベルアップ事業はもとより、経常経費についても改めて精査し、収入確保を図り、ごみ処理コストの低減を推進する。
 - ・協議会設立に向けて地元住民との関係強化を図ること。
- ② 環境と安全に配慮した取り組みについて
 - ・環境測定を着実に実行する。
- ③ 事業評価の実施(サマーレビュー)について
 - ・増減の見込まれる事業及び新規・廃止事業について評価を行い、事業ごとに選択と集中を行う。
- ④ 補助事業について
 - ・国庫補助金や都補助金の交付基準を再度確認し、新たな財源確保に努める。なお、補助事業であることを理由に安易に事業採択を行い、結果として多額の一般財源の持ち出しを招かぬよう留意する。
- ⑤ 国等の制度改正への対応について
 - ・制度改正が見込まれるものについては、新規・レベルアップ事業と同様に十分な理解と情報収集の上で必要経費を精査する。
- ⑥ 財政調整基金及び施設整備基金の運用について
 - ・中長期的視野に立ち両基金の積立て、活用を行う。

令和2年度予算の規模

予算総額は14億9,299万7千円で、前年度に比べ1億6,743万8千円、10.1%の減少となりました。

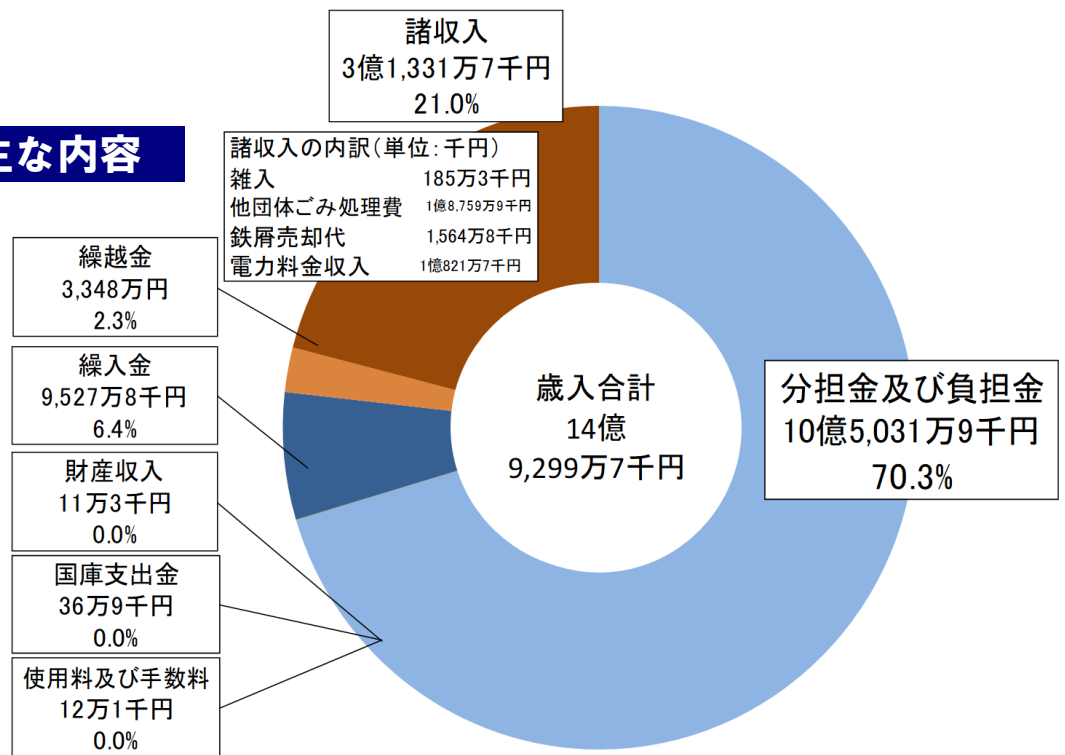
歳入面では、施設整備基金と財政調整基金の繰り入れを行い構成市負担金の抑制に努めています。

歳出面では、人件費、工事費の減少等により処理場費が対前年度比10.2%の減少となっていますが、焼却棟の特殊助剤タンク設置工事や不燃・粗大ごみ処理棟の照明LED化工事、空調設備改修工事などを実施し、効率的な工場運営を進めていきます。

また、ごみ量の減少に伴い、発電量が減少し、電力量料金収入が減少するため基金への積立が減少することから、諸支出金が対前年度比8.9%の減少となっています。

2 予算の主な内容

(1) 歳入



(単位:千円、%)

款	令和2年度		令和元(平成31)年度		比較	
	予算額	構成比	予算額	構成比	増減額	増減率
1 分担金及び負担金	1,050,319	70.3	1,044,214	62.9	6,105	0.6
2 使用料及び手数料	121	0.0	121	0.0	0	0.0
3 国庫支出金	369	0.0	290	0.0	79	27.2
4 財産収入	113	0.0	114	0.0	△1	△0.9
5 繰入金	95,278	6.4	262,431	15.8	△167,153	△63.7
6 繰越金	33,480	2.3	32,100	1.9	1,380	4.3
7 諸収入	313,317	21.0	321,165	19.4	△7,848	△2.4
計	1,492,997	100.0	1,660,435	100.0	△167,438	△10.1

歳入予算の主なもの — (対前年度比較) —

○分担金及び負担金

10億5,031万9千円

(610万5千円増)

・構成市別負担金内訳

(単位:千円)

	負担金額	負担割合	前年度負担金額	前年度比
八王子市	340,728	32.4%	336,599	4,129
町田市	69,280	6.6%	71,514	△2,234
多摩市	640,311	61.0%	636,101	4,210

○繰入金

9,527万8千円

(1億6,715万3千円減)

・施設整備基金繰入金

3,706万6千円

(工事への対応)

・財政調整基金繰入金

5,821万2千円

(財源調整)

○諸収入

3億1,331万7千円

(784万8千円減)

・八王子市拡大区域ごみ処理費

1億8,725万4千円

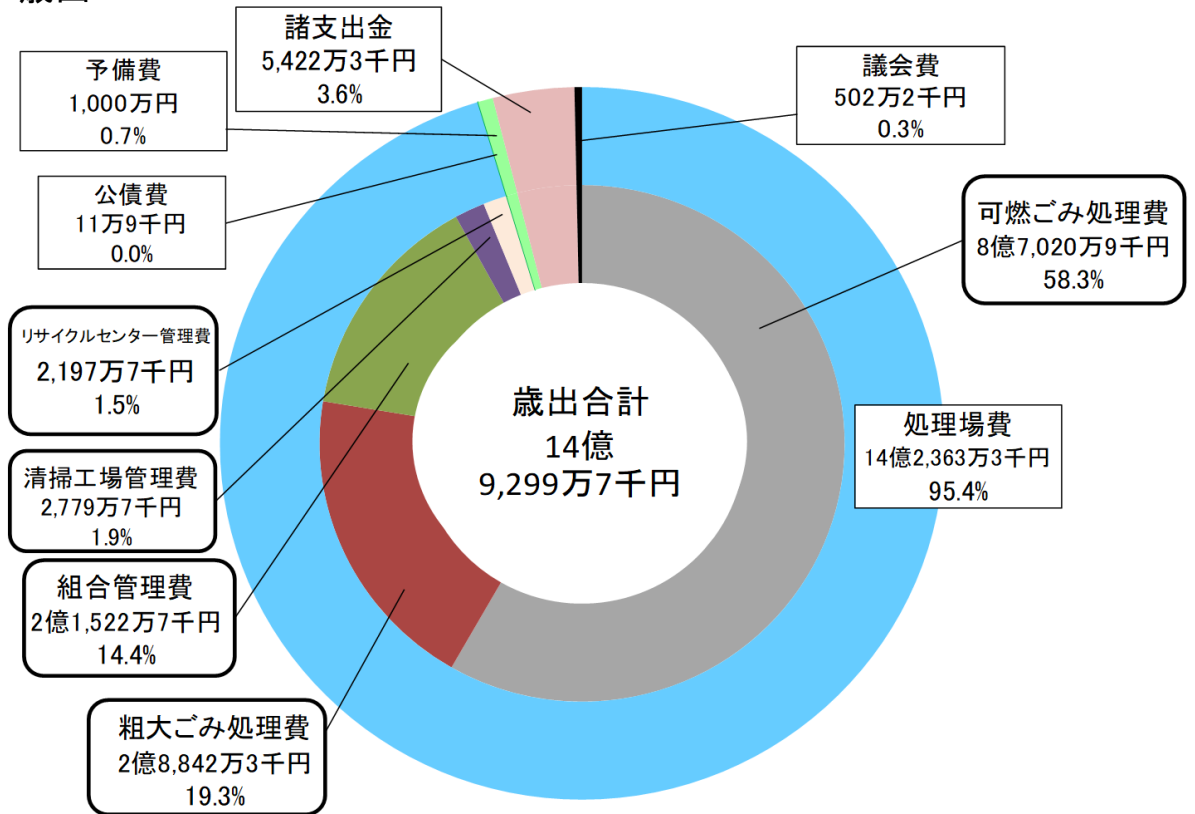
(302万3千円増)

・売電収入

1億821万7千円

(1,056万1千円減)

(2) 歳出



(単位:千円、%)

款	令和2年度		令和元(平成31)年度		比較	
	予算額	構成比	予算額	構成比	増減額	増減率
1 議会費	5,022	0.3	4,608	0.3	414	9.0
2 処理場費	1,423,633	95.4	1,586,198	95.5	△ 162,565	△ 10.2
3 公債費	119	0.0	125	0.0	△ 6	△ 4.8
4 予備費	10,000	0.7	10,000	0.6	0	0.0
5 諸支出金	54,223	3.6	59,504	3.6	△ 5,281	△ 8.9
計	1,492,997	100.0	1,660,435	100.0	△ 167,438	△ 10.1

歳出予算の主なもの — (対前年度比較で1千万円以上の増減があるもの) —

○処理場費

14億2,363万3千円 (1億6,256万5千円減)

- ・工事請負費 4億5,069万5千円(1億5,399万6千円減)
 - 機器補修工事 3億7,656万3千円 (2,406万8千円増)
 - 建築設備更新工事 6,023万3千円 (3,320万9千円減)
 - (照明LED化工事・2,276万7千円、空調設備改修工事・3,746万6千円)
 - 分散型計算機制御システム更新工事 0千円 (1億1,463万6千円減)
 - 特殊助剤タンク設置工事 1,389万9千円 (1,389万9千円増)
 - 落じん灰搬送設備設置工事 0千円 (4,411万8千円減)

3 基金及び地方債の状況

(1) 基金について

○施設整備基金

施設整備基金は、多摩清掃工場の施設整備及び修繕に充てることを目的に設置したものです。

令和2年度は、原資として売電収入の1/4である2,705万5千円、運用に係る利子の5万2千円を積み立て、建築設備更新工事、特殊助剤タンク設置工事に3,706万6千円を充当します。

○財政調整基金

財政調整基金は、災害復旧など突発的な財政需要が生じた場合や年度間調整として負担金の平準化が必要な場合の財源に充てることを目的に設置したものです。

令和2年度は、原資として売電収入の1/4である2,705万5千円、運用に係る利子の6万1千円を積み立て、財源調整として一般会計に5,821万2千円を充当します。

(単位:千円)

基金名称	平成30年度末 現在高	令和元(平成31)年度末 現在高見込額	令和2年度中増減見込み		令和2年度末 現在高見込額
			積立見込額	取崩見込額	
施設整備基金	607,202	565,610	27,107	37,066	555,651
財政調整基金	649,836	677,089	27,116	58,212	645,993

(2) 地方債について

地方債とは、「地方公共団体が1会計年度を超えて行う借入れ」のことをいいます。本組合では現在の施設を建設するための資金として借入れを行っていましたが、平成28年度末で全ての償還が終了しました。令和2年度は新たな借入れの予定はありません。予算上では一時借入金の利子相当額のみを計上しています。